

▶動物形土製品。国指定重要文化財。美々4遺跡から発見されました。中は空洞で全身に美しい模様が描かれています。今から約2500年前につくられました。祭りや呪いに関する遺物と考えられています。



◀土製仮面。国指定重要文化財。ママチ遺跡から発見されました。縄文時代の墓から出土しました。口と目の部分がくり抜かれ、静かな死の表情を表わしています。墓標に付けられていたようです。

▶男性土偶。市指定有形文化財。ナイベツ川付近で見つかりました。まゆや鼻などの表現が土製仮面とよく似ています。縄文時代の土偶は大半が女性をモデルにしているため、大変珍しい土偶です。



美々貝塚北遺跡北貝塚の断面。約6000年前の縄文時代の貝塚の土層をはぎ取った実物です。

繊細な手先の動きを感じることができます。
石棒の展示では、市指定文化財の「磨製石棒」や国内最大級の石棒などを展示しています。土製品とはまったく異なる造形で、かたい石材は金属的な質感を感じさせます。石材の加工は大変な労力を要しますが、石棒にはその労力にかえられない大きな力があると当時の人々には信じられていたようです。
墓の展示では、縄文文化（前期）や擦文文化、近世アイヌ文化、和ん文化を比較することができます。

壁際には、中央地区から出土した溶結凝灰岩製の柱状節理の角柱を展示しています。高さ170センチメートル以上、一辺が20センチメートルの大きく迫力のある石柱は、縄文時代の周堤墓の墓標として使われたと考えられています。

「くらしの文化」と名づけたこの展示コーナーでは、割ると鋭利な刃先になる黒曜石からつくった石器や礫を加工してつくった石器、漆を塗った弓、骨製の縫い針などさまざまな自然の素材を利用した道具を展示しています。また、ヒスイの勾玉やコハクの玉類などの装身具も展示しています。

展示のふたつ目の柱は、土器などの日常的な道具、植物や動物の骨などを使った道具などを紹介することです。ここでは古代の人々の暮らしを学ぶことができます。

くらしの文化

▶貝塚の貝殻。貝塚の展示パネルに触れることはできませんが、展示台の貝殻は自由に手にすることができます。縄文時代のくらしがわかります。



▶磨製石棒。市指定有形文化財。キウス周堤墓群で発見されました。全体がていねいに磨かれていて、両端は繊細な線で模様が彫られています。

